

第8回環境影響評価審査会
事務局資料
平成30年10月16日

横浜港新本牧ふ頭地区公有水面埋立事業
環境影響評価準備書に関する検討事項一覧

この資料は本件に関して、審査会から横浜市に提出される答申の内容を検討するための資料です。これまでの調査審議の内容を確認し、下表の項目・検討事項・内容を元に答申案を作成します。

※（）内の番号は、「横浜港新本牧ふ頭地区公有水面埋立事業環境影響評価準備書に関する指摘事項一覧」の番号に対応しています。

■ 事業計画について

項 目	検討事項	内 容	
事業 計画	図書作成	①	環境影響評価書の作成に当たっては、根拠を明確にし、分かりやすく丁寧に説明すること。
		②	「回避又は低減」をひとまとまりの指標とする理由を評価書に記載すること。(17)
	工事計画	③	工事計画の具体化に当たっては、環境に配慮した最良の技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減について検討すること。
		④	地盤改良を行わない埋立部については、将来の土地利用に支障がないように適切な沈下対策や液状化対策を講じること。(18、19)
	環境監視調査	⑤	東京湾環境一斉調査等との連携について検討した上で、工事中の環境監視調査の調査方法、調査地点、頻度及び結果の公表方法等を評価書に具体的に記載すること。(16)
		⑥	埋立地の存在や埋立地周辺で生まれる新たな経済活動等の複数の要因を勘案し、実行可能な範囲で埋立て完了後の環境監視調査を実施すること。(13)
		⑦	埋立て完了後の環境監視調査及び環境監視調査結果の公表等の事業者の自主的な取組を評価書に記載すること。(15)

■ 環境影響評価項目について

【工事の実施】

評価項目	検討事項	内 容	
大気質			
騒音	工事車両	⑧	工事用車両の集中を避けた分散運行に努めること。(28)
振動			
水質			
水底の底質			
動物、植物、生態系			
人と自然との触れ合いの活動の場			
廃棄物等			
温室効果ガス等			

【埋立地の存在】

評価項目	検討事項	内 容	
水質			
水底の底質			
地形及び地質			
動物、植物、生態系	生物共生型護岸	⑨	生物共生型護岸の効果を検証すること。(33)
		⑩	東京湾全体の生態系のバランスを考慮した上で、生物共生型護岸を整備すること。(31)
		⑪	環境学習の場としての活用等の事業者の自主的な取組みを評価書に記載すること。(15)
景観			
人と自然との触れ合いの活動の場			